

第4回 竹とあそぼう「竹炭体験」(11月20日(日))

11月曇りの日曜日、6名と少し寂しい参加者で竹炭焼き体験を行った。担当から行程の説明後、枯れ竹を詰めたオイル缶をドラム缶内に吊るして蒸し焼きにする行程からスタートした。炭になるには約4時間かかるため、その間、午前中は孟宗竹を鋸、鉋を使って所定の短冊形状にして束にする材料作りを体験し、午後は青竹を使って花器や食器、箸作り。参加者は「今日は竹炭体験に来たのだけど・・・」

と言いながらも一番頑張って作品を作っていた。2時頃、オル缶口の煙が灰色から透明に変わり炭になったことを示したので、缶を取り出し地中に埋める。冷却1時間後、皆の見守る中、蓋を開けて炭の出来具合を確かめる。今回はこれまでで最高の出来だと講師から80点をいただく。終わりに、予熱の残る竹炭と竹細工をお土産にして、喜んで帰路についてもらった。
(永田三治)

桜丘小学校「土曜授業」に参加

10月29日(土)ひらかた環境ネットワーク会議の依頼で、桜丘小学校の土曜授業に竹取会員6名が指導員として参加。

H25年11月「学校教育法改正」により土曜日も授業が出来る様になったとの事。当会への要望は「ヒノキ、竹の間伐材のノコ挽き体験を通じ自然環境保全の意義を学ぶ」趣旨でした。8時45分土曜授業の内容説明後、約270名の生徒達は、1時限～3時限に分かれ、且つ6ブースに分かれて自転車発電等それぞれの環境体

験学習に参加。

竹取ブースは約90名を6回に分けて、岡代表より注意事項を説明後、1グループは「ヒノキ、竹のノコ挽き体験」、1グループは「竹取パネルを活用して、竹取の活動紹介等のレクチャーを実施致しました。

1人15分の短時間で、ノコを初めて使った生徒達が多かつものの少しは里山の活動内容を理解してもらったと思います。

早朝よりご指導頂いた会員の皆様ありがとうございました。
(小出哲男)

ボーイスカウトによる山桜20本植樹

11月13日(日)生駒山系花屏風事業として、今年もボーイスカウト枚方第8団による植樹を団員20名、団員スタッフ8名竹取14名で行った。

今回は過去に植樹した所の補植事業として実施。植樹手順を竹取のスタッフに説明後、ボーイスカウトメンバーに説明。団員2名に1本の苗木を4ヶ所計20本植樹した。

今回は、支柱杭40本を野外活動センターより提供を受け、防腐処理した支柱杭による補強を行った。

苗木はヒノキ皮を保護材にして支柱に固定、生育を助長するため、深さ50cmの穴中に鶏糞を施肥し、敷きわらで被覆した。山桜の花言葉は「あなたに微笑む」の如く会員一同で桜の下で昼飯が出来る日が待ち遠しい。
(文 岡 春司)

ネットヨタ新大阪(株)ヒノキ間伐体験(10月24日)

6月に雨天延期したネットヨタ枚方店の13名がヒノキ間伐に来場した。快晴の下2グループに分かれて初のヒノキ伐りに挑戦し、慣れない力仕

事に息を切らしながらも各2本を伐り倒した。あまり積極的でなかった2本目は幹も太く苦勞していたが、田中店長をイジりながらワイワ

イガヤガヤと手より口の方がにぎやかだった。時期的に最後の皮むきも体験でき、休憩も忘れて熱中していた。昼食後は岩崎忠さんが準備した竹材を中心に花器・食器作りなどに挑戦し、はし作りやヒノキトップの皮むき、持ち帰

青桐保育園クラフト指導（アンパンマン）

11月11日（金）岡会長から、穂谷における里山保全の活動についての紹介に続いて、ヒノキの間伐材を利用した木端を活用して、アンパンマンのブローチ作りで園児43名が5班に分かれ、それぞれの班に担任の先生と竹取の会員7名が付き添い助言をしながら完成品まで指導を行った。出来上がった製品は、どれも個性が

2016年ワークキャンプ「ベンチを作ろう」

11月3日（水・祝）市民を野外活動センターに誘い、間伐材を利用したベンチ作りの体験や餅つき体験を、4家族9名と野外活動センターカウンセラー8名、竹取会員11名で行った。

竹取会員の指導の下、各家庭単位でヒノキ間伐材を利用したベンチを作成した。カンナ掛

りのためのヒノキ切りを、これまたにぎやかに時間いっぱいまで体験してもらった。20歳代の若者が多く、明るい企業風土のようで、またのご来場をお待ちしています。（西本敏明）

表れるものだなあと感じた。

園児は作品を大事そうに持って嬉しそうだった。最後にアンパンマンの作品を持って、園児と竹取の会員と一緒に記念写真におさまった。当日は、当園で職業体験中の中学生9名も一緒にお手伝いをしながら作品も作った。作品数は合計で61個作成した。（近藤勝一）

け、脚作り、ネジ止め仕上げノコ挽き、完成後の作成サインまで全員参加でベンチ3脚の作成を完了した。昼前から餅つきを皆で体験し、出来たてのお餅を、カラミ餅、醤油、きなこ餅にして豚汁と共に賞味した。参加者には自然を体感してもらった1日であった。（近藤勝一）